

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071200622		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム怡土		
所在地	福岡市西区大字徳永1065-1 (電話) 092-807-7576		
自己評価作成日	平成23年12月31日	評価結果確定日	平成24年3月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の皆様の自主性を活かし、それぞれが食事作り、清掃、洗濯などスタッフと共に和気あいあいと行き、レクリエーション、趣味活動など楽しい時間を過ごされている。また、自然環境にも恵まれており、散歩や外出をし、四季折々に触れることができる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成24年2月1日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は海・山にも近く、九大伊都キャンパスが移転した再開発地域にあり、買い物や交通の便が良く、医療機関や学校に近い。利用者は畑地もある住宅地を散歩しながら住民と触れ合うことも多い。協力医療機関は24時間体制で健康管理や救急対応を整えている。家庭的で温かく落ち着いた雰囲気があり、事業所は職員の研修など働きやすい職場環境にも力を入れている。利用者の理念に沿った暮らしが実現できるよう地域・家族等の交流にも努力している。100歳、90歳後半の数名の利用者もいるが、介助を受けながらも自立して、いきいきと生活されている。利用者自身が主役になって生活できるように援助を行っている事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し和気あいあい。地域の一員として生きがいのある暮らし」を理念とし、皆が共有し実践できるよう努めている。	地域密着型サービスの理念があり、朝礼で声を出して読み上げて意識付けを行っている。日常の実践に活かされるよう全員で理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・買い物等入居者の方と一緒にいき、地域の方と会話したりしている。中学生の福祉体験、職場体験も受け入れている。	事業所は地域の自治会に加入し、事業所で行う夏祭りや文化祭行事には地域住民をを招いている。散歩中は地域の方と親しく会話するように努めている。住民から手芸品や生花、しめ縄などが届けられるなど、地域住民との相互的な交流を行っている	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、自治会の方と意見交換をしている。包括支援センターの方による認知症の講習も行われている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行って実施報告をし、今後のサービス向上の為に意見交換を行っている	運営推進会議は行事案内や今後の活動計画、外部評価への取り組み状況を報告している。委員から地域の情報を得たり、認知症書籍の貸出についての意見や、家族会費の使途などの質問・意見等も出されている。事業所と委員が考え方を自由に述べお互いを理解する機会となっており、サービスの向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方に事業所へ来て頂き、情報交換を行っている。また、サービス向上へのアドバイスを頂いている。	市の福祉課担当者の定期的な事業所訪問があり、事業所の状況について報告したり、支援について相談している。日頃から協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修に参加し、身体拘束ゼロへのケアを実践できるよう取り組んでいる。また、3ヶ月に1回委員会を行い話し合っている。	管理者・職員は外部・内部の研修を受け、身体拘束について理解を深めている。玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向のある利用者に対しては、事業所職員全員で見守りを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を行い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し知識を得ると共にスタッフ皆が共有できるよう話し合いを行っている。また、家族の方へ情報を提供し支援に努めている。	事業所は職員が成年後見制度を理解し、必要に応じた相談ができるように、権利擁護について外部と内部研修を行っている。家族には家族会総会で説明を行い、個々の相談にはパンフレット等で説明できるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はスタッフが家族へ説明し、その都度不明な点がない事を確認している。料金改定時は全家族と話し合い、十分な説明を行った上で、理解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族・入居者の方が誰でも利用できるようにしている。また、その意見について話し合いサービスの向上に繋がるように取り組んでいる。	担当職員は、家族が訪問された際に、家族に利用者の日頃の状態等を伝え、介護計画の説明やご家族の意見・要望等を聞くように努めている。家族会からも事業所の行事運営について意見や提案があり、それらを検討して運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議で、要望、意見を聞き取り、運営に反映させている。	自己評価は職員が手分けして記入している。施設長は職員全員にアンケートを行い、職員が我慢していること、購入されていない必要物品、その他職務や運営に対する意見や提案を求め、改善すべきところの検討が行われている。また、毎月の職員会議で意見を聴き、働き易い職場やチームワークの良い環境作りに努めている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加のバランスや、勤務状況の確認などは常に行い、介護技術や管理能力の向上を図るために、短期間の関連施設への人事異動を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	高齢者、障がい者雇用については実績もあり採用対象となっている。また、定年再雇用制度を取り入れており、社会参加や自己実現の権利は十分に保証されている。	採用は、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。採用に当たっては人柄を重視し、その能力を発揮できる職場環境を整え、資格取得できるように支援している。また、障害者の就労支援受け入れ経験がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同和研修、人権学習に参加し、入居者職員に関する事など幅広く学習し、また、内部研修も行っている。	全職員が人権に関する外部または内部研修に参加し、同和・人権学習や高齢者虐待問題について学び、一人ひとりを尊重する支援を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の際に、職員一人ひとりの介護技術バランスを考慮し、平均した受講となるよう取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週1度、他施設（老健）の陶芸クラブへの参加や、内部研修の合同参加を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との面談により得た情報を基に、職員間でも共有し円滑に馴染めるように支援している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、要望など傾聴し事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いや状況等を確認し、必要としている支援を見極め、場合によっては他の事業所等を紹介することもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃、食事準備、洗濯干しなど一緒にすることも多く、職員は利用者に対していつも感謝の気持ちを持っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、まずゆっくり居室などで本人と話してもらい、次に最近の様子を伝え、改善したい点があれば、家族と共にどうしたら良いか話し合っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力を得て、会いたい人や場所など実現できるように支援している。	事業所は、家族や利用者の友人・知人の訪問を歓迎している。職員は年賀状や手紙のやり取りに関する支援、電話の取り次ぎなどを行いながら、利用者の馴染みの関係が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りなどそれぞれが役割を持ち、声をかけあって行っている。また、気の合う者同士が会話ができるように席を工夫している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は、アセスメント・ケアプランなどの支援状況など手渡し、ご本人が混乱されないように情報交換し、その後の様子観察に面会も行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時はもとより随時入居者と話し、意向の把握に努めている。困難時には家族やスタッフと話し合い出来るだけ実現するよう取り組んでいる。	日々の暮らしの中で直接声をかけて聞いたことや気づいたことは記録に残している。利用者の暮らし方の思いが反映できるように入居時の情報も参考にしながら、本人本位に意向や思いの把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時より本人や家族に生活履歴を確認している。ケアプランもそれを活かしてホーム内の活動に取り入れている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日1回のバイタル測定を行い、体調の確認等を行っている。また、1ヶ月に1回モニタリングを行い、現状の能力を把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に本人、家族等と話し合い、意見を取り入れたケアプランを作成している。また、月1回もモニタリングを行い、現状の有する力を把握している。	日々の実践や評価、職員や医師の意見等を踏まえ、利用者や家族の意見を聴いて介護計画を作成している。利用者の状態の変化には随時見直しをしている。状態が安定している場合は、3ヶ月毎に個別的に計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践結果を個別記録に記入した際、援助目標の番号を振り分け、その日その時にケアが実践できているのか職員が把握しやすいようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに即してサービスを提供しているが、本人や家族の状況に応じ、支援やサービスを変更している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて包括支援センターの方や民生委員の方に意見を頂いている。また、地域のイベントなどにもできるだけ参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に添ったかかりつけ医の受診を支援している。	利用開始時に利用者・家族と話し合い、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。受診の付き添いは家族に対応してもらうが、難しい場合は柔軟に対応している。情報の伝達は随時電話で行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護が必要と考えられる入居者の状態を看護師に伝え、受診すべきか助言を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は病院への訪問や電話にて情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者の重度化に伴う対応についての指針説明を行い、理解を得た後に契約をしている。重度化した場合は、関係医療機関、本人、家族と協議し対応していく。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応指針がある。利用開始時に事業所が対応し得る支援について家族等に説明し、家族の今後の考え方を聞き、主治医の意見を参考にしながら方針を共有し支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の勉強会にて応急手当や初期対応の訓練を行っている。また、応急処置の研修にも参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び夜間を想定し、避難訓練、消防訓練を行っている。緊急連絡網を作成しており、町内民生委員、地元消防団、町内会長に自動通報され、協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。地元消防団や町内会長・民生委員に自動通報される仕組みを整えている。非常用備品・食料・飲料水は、事業所内に準備している。	今後は運営推進会議等を通じて地域住民へ訓練参加の呼びかけを行ってほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁されている時は自尊心を傷つけない声かけを行っている。入浴拒否の時は声かけに工夫をし誘導している。	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いや守秘義務についても、利用者を尊重するための内部研修を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不安や心配事がある方には、その思いに寄り添い声掛けを行ったり、帰宅要求がある方には外庭に出たり、ドライブに出かけ気分転換を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の挨拶を一人ひとりにかけて会話の中に取り入れたり、レクの中でも問いかけて希望に添って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴準備の時に一緒に選んだり、散髪は本人の希望に添ってカットし、その人らしさを大切にしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの中で野菜の皮むきや野菜切りを一緒にやっている。献立作成は利用者の好みをメニューに取り入れている。	利用者と職員は、一緒に準備や食事、後片付けを行い、同じテーブルでさりげなく見守りを行いながら、食事を一緒に食べている。職員は利用者と和やかに会話をしながら、利用者が食事を楽しむことができるように支援している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前・午後のおやつ時にも水分補給を取り入れ、排尿が少ない方には、水分補給や嘔むことが難しい人には刻みにした支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず一人ひとりに声掛けをし、口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間預かり、洗浄している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の申し送りにて一人ひとりの状況を把握し、排泄チェック表を確認して誘導を行い、食前、食後のトイレ誘導も行っている。	職員は、排泄のパターン・習慣を活かしてトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。定期的なトイレ誘導や布パンツの使用等、利用者の状態に合わせて随時検討し、支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前・午後のおやつ時に水分補給を取り入れ、レクの中で運動を取り入れチェック表を確認しながら下剤を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	月・水・金の午後より入浴2人ずつ声掛けをし、ゆっくり入浴していただいている。	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせ入浴支援をしている。入浴を拒否される利用者には言葉かけや時間をおく等の工夫をして、個々の状態に沿った支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝と思いききてこられる方には、時間を伝え入眠を促している。日中、レクや余暇活動を増やし、夜間休息してもらえるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書をファイルし、全職員が効能や副作用等を把握しており、正しく服薬できるように支援している。服用によって変化がある場合は記録し、家族や医師に連絡している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、掃除、洗濯物のたたみなど、それぞれ有する力を発揮してもらっている。一人ひとりの楽しみ事を把握し、雑誌や新聞を読んでもらったり、陶芸クラブ趣味活動に参加できるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と買い物に外出したり、外食やドライブにも出かけたりしている。また、家族の協力もあり一緒に外出されたりもしている。	利用者の状況や希望、また、天候に配慮しながら、散歩や買い物、季節ごとの花見、普段行けないような場所へのドライブ等の支援をしている。季節感を感じることが出来る場所への外出や、本人の希望に応じた外出など、きめ細かな行事企画を立案している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が金銭管理しているが、金銭の額や用途については、家族と相談し合意を得ながら行っている。買い物等必要時には、本人に手渡し使うことの支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族の方へ電話できるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を植え、室内も季節にあわせ装飾している。トイレなども汚染時には随時清掃し、衛生管理を行うと共に適温適湿管理を努め、居心地よく過ごせるようにしている。	木の暖かみを活かした明るく広々とした空間で、利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。天井から入る日光も柔らかく心地よい。季節感あふれる装飾で、換気も留意され、居心地よく過ごせるよう共有空間づくりに努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファの配置でそれぞれ好きな場所で気の合う人と談笑したり本や新聞を読んだり、思い思いに過ごされている。独りになりたい時は居室で過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談し、本人の使い慣れた家具類や調度品の持ち込みをお願いし、安心して過ごせる場所となるよう配慮している。何も置かずすっきりとした居室が落ち着かれる入居者の方もいる。	居室には、ソファ・タンス・時計・趣味の道具等の馴染みの物が自由に持ち込まれている。家族写真や人形等好みの物で飾られ、個性が感じられる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認識間違いされる方には居室やトイレ等のドアに分かりやすく表示し、混乱を招かないよう努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない